| タイトル | 我が国の救急医療体制と病院前医療体制 | WS：搬送と受け入れ実施基準と緊急度判定 | WS：救急医療体制にかかる調整 | WS：救急医療体制にかかる調整 | 消防法の改正について | 局地災害における消防活動 | WS：局地災害のMCに関する問題の理解 | 通信指令業務について | WS：通信指令業務の事後検証について | 救急救命士等に対する教育 | WS:救急救命士等に対する教育 | WS:再教育システムの構築 | WS:MC及び指導医の今後の展開 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講師 | 酒井先生　61枚 | 横田先生　56枚 | 溝端先生　16枚 | 田邊先生　枚 | 寺谷先生　56枚 | 山口先生　枚 | 益子先生　枚 | 定岡先生　32枚 | 森村先生　枚 | 根本先生　12枚 | 根本先生　6枚 | 浅利先生　24＋13枚 | 坂本先生　16枚 |
| テーマ | 医療計画制度について　17枚<br>救急医療の現状について　6枚<br>病院前医療体制の経緯について　7枚<br>病院前医療体制の現状　9枚<br>・出動件数と搬送時間の推移<br>・救急搬送における医療機関の受け入れ状況<br>メディカルコントロール体制について　12枚<br>救急救命士について　9枚<br>・救急救命士と救急救命処置の定義 | 背景　7枚<br>・出動件数と搬送時間の推移<br>・救急搬送における医療機関の受け入れ状況<br>事例1　外傷　20枚<br>事例2　内因性　23枚<br>プロトコル　6枚 | 導入　7枚<br>問題点　4枚<br>解決の優先順位　5枚 | スライドなし | 消防組織概論　6枚<br>救急業務と救急救命士　4枚<br>・救急救命士と救急救命処置の定義<br>とりまく状況　11枚<br>・出動件数と搬送時間の推移<br>・救急搬送における医療機関の受け入れ状況<br>あり方検討会紹介　3枚<br>教育　4枚<br>指導救命士　6枚<br>改正消防法　6枚<br>おわりに　7枚<br>まとめ　6枚 | スライドなし | スライドなし | 通信指令業務　6枚<br>通信指令の役割　8枚<br>・出動件数と搬送時間の推移<br>指令員教育の現状　9枚<br>口頭指導の事後検証　6枚 | スライドなし | 救命士教育の種類　5枚<br>教育の方法　6枚 | 生涯教育の現状についての質問<br>再教育が必要な救急救命士についての質問<br>・5W1H | 救急隊員教育の歴史　4枚<br>国の考え方と現状　4枚<br>生涯教育の指針　8枚<br>WS<br>救急活動実際の問題点<br>できる救急隊員は？<br>再教育の方法<br>・5W1H | 3つのテーマのディベート<br>・コア業務vs地域医療体制<br>・救急医vs地域の医師の総力<br>・指導医の立場 |
| 必要項目 | 国レベルの救急医療体制について | 搬送基準の理解 | 問題点抽出の考え方を理解する | | 消防を理解する | | | 通信指令業務を理解する | | 救急救命士のきょう | | | |
| 考察 | 内容が重なっている箇所もあるがコアな部分なので必要と考えられる | 具体的な先行地域の紹介をしているためわかりやすい、導入部分で前出のスライドがあるが議論のためには必要と考えられる | MC医師としての今後地域での活動の考え方が理解できるため有意義 | 不明 | 内容が重なっている箇所もあるがコアな部分なので必要と考えられる | 不明 | 不明 | 通信指令の部分に特化しており、わかりやすい。 | 不明 | 不明 | それぞれはとてもわかりやすく、救命士とその他の消防職員ということで分けていると思うが、教育手法という点で重なってしまう。 | | |

受講者による検討結果

○内容の重複
・「WS:救急救命士等に対する教育」と「WS:再教育システムの構築」
　内容は似ているが、全体的には切り口が違う
　再教育の手法について「WS:救急救命士等に対する教育」の設問2（後段）と「WS:再教育システムの構築」の設問3がほぼ同一

○スライド1枚が重複といった程度のもの
・「我が国の救急医療体制と 病院前医療体制」と「WS：搬送と受け入れ実施基準と緊急度判定」
　救急搬送の増加のスライドが同一
・「我が国の救急医療体制と 病院前医療体制」
　高齢者・内因・軽症／中等症が増加の説明が一緒